

埜クロスマネジメント代表 畑埜義雄先生にご講演いただき、すべての講演が大盛況でありました。

一般演題発表(口演・ポスター)についても充実した内容で、各施設や行政等の取り組みについて活発な意見交換をしていただきました。

最後に本学術集会在盛会のうちに終了できたことをご協力いただきました関係各位に深く感謝を申し上げます、開催報告とさせていただきます。

第17回京滋支部学術集会

学術集會会長：京都第一赤十字病院院長 池田栄人

2020年
2月15日
(土)、京都
テルサ(京
都府民総
合交流プ
ラザ)にお
いて「今見



会場風景

つめ直すチーム医療の重要性～患者と紡ぐ医療を～」をテーマに第17回京滋支部学術集會を開催いたしました。

特別講演に株式会社ASK梓診療報酬研究所の中林 梓先生をお招きし、「2020年度診療報酬改定について」と題し、ご講演いただきました。パネルディスカッションは「地域で“暮らす”、そして“生ききる”に伴走する医療～ACPをつなぎ、紡いでいく～」をテーマに在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィスの宇都宮 宏子先生、株式会社ゆうホールディングスの小林篤史先生、京都府立医科大学附属病院の光本 かおり様の3名のパネリストにご登壇いただきました。

参加者数262人で、一般演題68演題の発表が行われ、活発な意見交換がなされました。

最後に本学術集會開催にあたりご支援、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

第20回大分県支部学術集會

学術集會会長：大分三愛メディカルセンター院長 森 義顕

2020年2月15日(土)ホルトホール大分にて、「医療における危機管理のゆくえ」をテーマに第20回大分県支部学術集會を191名の参加を得て、開催いたしました。午前中は2会場一般演題23題の口演と活発な討論が行われました。午後はメイン会場でランチオンセミナーに引き続いて特別講演、教育講演を企画しました。特別講演には国境なき医師団(MSF)日本の前会長、

黒崎伸子先生をお招きし「人道的医療活動から学んだこと」と題して、2020年2月現在、



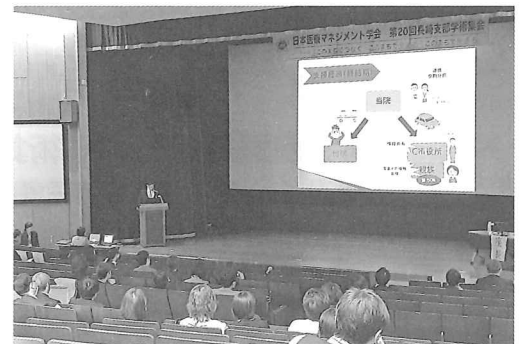
会場風景

地球上で最も深刻な戦闘状態にあると言われるシリア、イドリブ県での2013年のミッションなど、危険な地域を含む各地での医療活動や組織運営についてのご経験をお聴きしました。私たちの日常とはまったく異なる医療現場での危機管理は災害時等の参考になるものでした。教育講演では福岡済生会病院外科部長、鹿田康紀先生から、人生最終段階での準備できる危機管理とも言える、アドバンスケア・プランニングのお話を伺いました。この2講演は聴講者一同にたいへん好評でした。

第20回長崎支部学術集會

学術集會会長：長崎大学病院地域医療連携センター長
川崎浩二

2020年2月15日(土)
12:45から、第20回長崎支部学術集會「テーマ：このまちでつなぐ・このまち



会場風景

で支える・このまちで生きる」が長崎大学医学部記念講堂・良順会館で開催されました。参加者数は190名でした。13:00から一般演題40題が2会場で口演発表され、16:00からはシンポジウム「病院と地域のネットワーク～その人らしい生活を実現するために～」が開催されました。シンポジストは、高山義浩先生(沖縄県立中部病院 感染症内科/地域ケア科・副部長)、櫃本真幸先生(日本医師会総合政策研究機構客員研究員)、小林利彦先生(浜松医科大学病院医療福祉支援センター長)の3名で、それぞれ「病院に求められる地域包括ケアとの連携」、「生活に戻すための医療～入院前から退院支援～」、「地域を支える医療・介護・福祉関係者に期待される資質と行動」という演題でお話いただき、18:00まで活発な質疑応答が行われました。